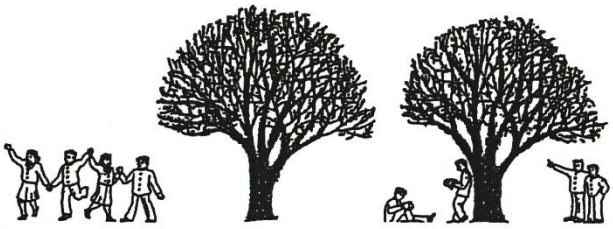
群馬県立太田高等特別支援学校

校長室通信

２本のケヤキ



第１７５号　（令和８年１１月１１日）

創立40周年記念式典

１１月２日（月）、本校体育館にて「創立40周年記念式典」を挙行いたしました。群馬県教育委員会教育委員の宮坂あつ子様、太田地区選出の県議会議員の皆様をはじめ、多数のご来賓の皆様にご臨席を賜り、深く御礼申し上げます。

式辞では、二度の校名変更を経ても変わらない本校の校訓「挨拶・努力・自立」のもと、社会でたくましく生きる人材を育んできた歩みを振り返りました。そして、次の 50 周年に向けた未来への航路として、以下の「三つの軸」を提示しました。

①「原点」の継承：開校以来の教育方針と「専門教育」の本質を守り抜きます。

②「変革」への挑戦：医療的ケア受入や作業班新設など、時代のニーズに応える学びを提供します。

③「共生」への貢献：インクルーシブ社会の実現に向け、地域の要請に応える役割を果たします。

式典では歴代校長や PTA会長の皆様等へ感謝状を贈呈し、温かな祝辞を賜り幕を閉じました。

続くアトラクションでは、普通科のダンス「カリスマックス」、産業科の演奏「星影のエール」「切手のないおくりもの」、そして「こうようソーラン」が披露され、会場は熱気に包まれました。努力の成果が詰まったクオリティの高い発表に、ご来賓の皆様からも絶賛の声が寄せられました。なお、当日の様子は翌日の上毛新聞にも掲載されました。

（※記念品として「ハンドタオル」「クリアファイル」「40周年記念誌」をご来賓の皆様、本校全家庭に配付いたしました）





40年を振り返る②

～こうよう祭の変遷～

創立10周年記念誌に寄稿された大塚博本校元教諭の手記などを基に、本校の伝統行事である「こうよう祭」の変遷をご紹介します。

こうよう祭のルーツは、昭和63年に始まった作品展にあります。作業学習の成果を披露し、障害への理解を深めていただくことを目的にスタートしました。平成元年度には規模を拡大し、予算や会場の関係から「3年に1度の開催」として正式に「こうよう祭」が誕生しました。

名称の決定にあたっては、PTA・生徒・職員から幅広くアイデアを募集しました。校章のレンゲツツジにちなんだ「萌黄（もえぎ）祭」、国際化を意識した「KOYO祭」、開催時期に合わせた「紅葉（こうよう）祭」、大樹への成長を願う「欅（けやき）祭」、交流を深める「交友祭」など数多くの候補が挙がる中、協議を重ねて現在の「こうよう祭」へと決まりました。

初期の作品展では地域の方々との作業学習（木工・陶芸教室など）が中心でしたが、こうよう祭となってからは各学年の劇や美術作品展示などが加わり、より賑やかな行事へと発展しました。地域の方々をはじめ、実習・就職先企業の皆様、卒業生など多くの方が訪れる賑いの場へと成長していきました。

その後、平成13年度からは現在の「毎年開催」の形となり、本校の教育活動を伝える大切な機会として受け継がれています。

今年のこうよう祭は １１月21日（土）に開催いたします。生徒たちの輝く姿と日頃の学習成果を、ぜひ会場でご覧ください。皆様のご来場を心よりお待ちしております。

